

議員派遣報告書（閲覧用）

令和6年6月12日

岐阜県議会議長 様

岐阜県議会議員 高殿 尚

下記のとおり議員派遣業務が終了しましたので、報告します。

記

派遣目的	県が推し進める森林づくり政策、新たにスタートする森林空間の活用等について、森林産業の先進地調査及び河川敷の近自然型事業や、都市におけるグリーンインフラ整備状況等の調査を行い、今後の県における政策立案、事業への取組み及び更なる推進に役立てる。
行程表、派遣成果	別紙のとおり
県政に活用できる事項	
県担当課	内 容
林政課 森林活用推進課	森林空間・森林サービス産業の展開に関すること 多機能森林業に関すること 山岳林業施設に関すること
環境生活政策課	（仮称）中部山岳国立公園奥飛騨ビジターセンターの機能や運営の展開に関すること グリーンインフラに関すること
保健医療課	「クアオルト」施策に関すること
収集資料（別添のとおり）	

日 程

日付 曜日	午前 午後	渡航先国・地域 訪問地名	使用交通機関	日 程 の 概 要 訪問予定先名称等	宿 泊 先
4/16 (火)	午前 午後	富山県 東京都 ドイツ フランクフルト	LH4895 LH717	7:05 富山空港発 8:10 羽田空港着 11:45 羽田空港発 19:00 フランクフルト空港着 21:00 視察オリエンテーション (フランクフルト泊)	Motel One Frankfurt Römer
4/17 (水)	午前 午後	フランクフルト シュヴァルツヴァルト ヴァルトキルヒ	専用車	8:30 ホテル発 11:00 森林レクリエーション施設視察 16:00 河川の近自然化現場視察 (ヴァルトキルヒ泊)	Hotel zum Storchen in Waldkirch
4/18 (木)	午前 午後	ヴァルトキルヒ フライブルク	専用車	8:30 ホテル発 9:00 フライブルク市の都市グリーンインフラ地区視察 11:30 ワイン研究所視察 14:00 フライブルク郊外の涵養堤視察 16:00 フライブルク市旧市街地視察 (ヴァルトキルヒ泊)	同上
4/19 (金)	午前 午後	ヴァルトキルヒ ノイエンブルク スイス シュヴィーツ フィッツナウ	専用車	8:00 ホテル発 9:00 ライン川河川敷の近自然型造成地 観光レクリエーション施設視察 13:00 シュヴィーツ山岳林施業施設視察 17:00 ホテル内スパ保養施設視察 (フィッツナウ泊)	See-und Seminar-Hotel in Vitznau
4/20 (土)	午前 午後	ドイツ シュヴァルツヴァルト ハイデルベルク	専用車	8:30 ホテル発 11:30 多機能森林業視察・講義 17:00 ハイデルベルク市内視察 (ハイデルベルク泊)	Qube-Hotel Heidelberg Bahnhof
4/21 (日)	午前 午後	ドイツ フランクフルト	専用車 LH4948	8:00 ホテル発(フランクフルト空港へ) 12:10 フランクフルト空港発	機内泊
4/22 (月)	午前	東京都 富山県	LH4894	8:10 羽田空港着 10:05 羽田空港発 11:05 富山空港着	

ドイツ・スイス 視察報告書(令和6年4月16日~21日)

高殿 尚

今回で2回目となるドイツ、スイスへの新たな視察テーマは、県が推し進める森林づくり政策に加え、新たにスタートする森林空間の活用、森林サービス産業『ぎふ森フェス』の展開を、林業先進地 ドイツにて現地調査。

また、河川における近自然型事業や、都市におけるグリーンインフラ整備等の調査をおこない、現地現場で知見・知識を深め高めることも視察の目的とする。

スマート サステナブル ソリューションズの池田氏に日程のアレンジを依頼、また同行、および通訳・説明等もしていただき、森林・林業エリアでの現地説明には、地元森林官のミヒャエル ランゲ 氏にも同行いただき、微に細に説明を受ける。

現地では東京大学 客員共同研究所 高橋研究員、民間木材会社 中村氏らも合流。官、学、民、そして私が県議会議員の立場で、幅広の立ち位置からの情報収集や、意見交換をさせていただいた。

1 日目(日本→ドイツ) 4月16日

① 視察オリエンテーション

・ツアー参加者が、初めて一同に会して、自己紹介やツアーガイドからの目的意識の共有、日程行程の確認、および視察内容について詳細にレクチャー。

2 日目(ドイツ) 4月17日

① 森林リエーション施設視察(シュヴァルトツヴァルト)

・ナショナルパークにある最新の森林保養施設

建設費 50 億円を投じ開設 2 年を迎えた、ナショナルパークの森林保養施設を視察。ここでは、崩壊していく倒木等、ナショナルパークエリアの約 80%のコアエリア(ドイツ全体では森林の 2%)を、そのまま手付かずのエリアとして、時間軸の長いデータの収集や研究を進めている。

更に、森林エリアに関係する生物多様化、土壌の細菌や微生物の役割等も含めて、これまでである関連施設とは違い、今後の森林保全の方向性に警鐘を鳴らすとともに、未来の森林環境の保護への一歩を踏み出す、次の世代に繋ぐ教育の場として極めて意味のある施設である。

当日の来場者は、環境教育等の小学校の生徒ら学校単位で見学にきており、州をあげて、森林環境教育の実践をされていると強く感じた。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

- ・中部山岳国立公園活性化に関わる、新たな県の施設である「平湯ビジターセンター」の機能や運営の展開に大いに参考になった。
- ・森林環境保全教育にも、有効になり、幅広の来場者に対応する内容とするとも必要であるとも感じた。
- ・これまでの施設は、経過説明的な情報発信の施設や内容であるが、次世代への課題提案や問題意識の醸成等、新たな情報発信・展示も検討することも必要。
- ・全国 2 位の森林県として、全国に先駆け、更に県が全面的支援をしていき、どこにも真似ができない施設整備や充実の展開を期待する。

② 河川の近自然化現場視察(ヴァルトキルヒ)

・Waldkirch の河川の近自然化視察

Waldkirch 川の河川整備の一環で、この市内流域沿線の河川底整備、および、中州整備をすることで、川の流れを変え、河川氾濫抑止や、河川堤防崩落抑止にどのような効果や整備があったかを、2 年前の工事を参考にお聞かせいただきながら、現地を視察。

改修工事の効果、護岸工事後の生物多様性、自然化や緑化も順調に進んでいると感じた。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

・日本(岐阜県)とは、河川の質や規模は違うが、治水や災害抑止に関する河川管理の在り方のひとつとしては、大いに参考になった。

特に、自然環境に配慮等の整備に取り組む地域の工法のひとつとして、自然化、グリーンインフラは、これからのキーワードになるとも考える。



3日目(ドイツ) 4月18日

① フライブルグ市の都市グリーンインフラ地区視察

リーゼルフェルト地区の都市計画におけるグリーンインフラの推進状況を視察。現状とともに、近未来の生活様式を見据えたコンセプトは、自然環境保全、エコ住宅、学校等の公共施設・建築物等、温暖化等による自然環境に対応をしたり、市民の人口統計等の推移データに基づき、老若男女、個人も家族も複合的バランス維持発展を見越して、人口構成を視野に入れての計画構築と実践。ヒートアイランドの緩和対策に対応した建築様式となっている。

エリア化にして住まう人、歩行者、車等が、快適な環境で生活できるよう、総合的な都市計画に配慮。

また、公共交通施策は、都心にトランジットモールが整備され、路面電車やバスが便利であり、路面電車の線路エリアにも緑化や騒音防止にも寄与している。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

フライブルグの総合計画は、広大、長期的な将来像を見越した計画を実践。

環境を配慮した施策は、重要だが、そこに住まう住民の理解を得たうえで、推し進められてきたが、近未来への施策の転換は、中々理解を得にくいと推察。

「清流の国ぎふ」総合政策は、長期的視点や視野、近々のコロナ感染症、また、能登半島地震等の想定を上回る事案、想定を超えた事案には、5年の見直し期間前であっても、臨機応変に対応できるような、大きな事案については、施策の展開の見直しも必要である。

グリーンインフラは、建築やまちづくりに限らず、河川の近自然化改修や、

治山事業にも、大いに取り入れるべき課題と感じた。

② フライブルグ市街地における2カ所の涵養堤

フライブルグ市の市街地から、市内を流れる河川の上流に視察先を移して、100年に一度の急激な河川増水にも対応して、河川の流水を一旦涵養地に集め、下流域への被害が起こらぬよう、堤から放流する施設を視察。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

岐阜県の河川流域の性格上、この施設は合致しないが、上流の森林から、下流域の水管理は、森林管理、治山事業、河川改修・整備等に、複合的に、かつ総合的に、幅広い整備計画の推進の必要性を再認識。

③ ワイン研究所視察

・菌に強い品種の説明と研究所視察

ドイツの農業主産業のひとつであるワインの研究所を視察。

菌に強い品種づくりへの取り組みや、研究所の各施設内を見学。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

岐阜県には、中山間農業研究所、畜産研究所、水産研究所等があるが、研究は、近未来の農水産業の発展に、大きな寄与や貢献を生み出す施設や人員。この施設の今の研究は、25年後の商品化を目指す、息の長い研究。気候変動等に対応する品種改良には、こういった研究への長期的支援や、長期的に安定した予算化が必要と感じた。

④ フライブルグ旧市内視察

・フライブルグの街づくり視察

歴史的建築物の保護、歴史的街並みの景観づくり、店舗と住宅機能の構築等、観光地づくりに向けての高付加価値化へのプランづくりの参考。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

高山市の歴史的価値のある中心市街地の街並み、白川郷の歴史的建物群等の文化的建物やエリアの保護の高付加価値化への支援内容も要検討事項。



4日目 4月19日(ドイツ→スイス)

① 医療と森林浴を効果的活用した連携事業

最新医療施設と河川敷緑地の森林の相互利用で、ストレス等に病んだ方々が、医療治療と森林浴等で、長期滞在をしながら療養をする「クアオルト」の視察。エリア内には、近代的医療施設、宿泊施設・レストラン、森林や公園が隣接。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

岐阜県でも、医療と森林浴利用効果治療、温泉浴と森林浴との連携では、高山市奥飛騨温泉郷・下呂温泉でも、施策の展開の可能性を秘めていると感じた。

② スイス シューヴィーツ山岳林施業施設視察

地元森林組合(OKA)のトーマス・ヘディガー所長の案内で、森林施業を終えた現場にてレクチャー。

森林整備を終えたエリアの現場の効果や成果を説明。スイスの自然への影響を回避する施業の実践について理解できた。

続いて、まさに現在作業中の現場にもご案内いただき、高性能林業機械タワーヤーダの作業風景をライブで視察。間伐計画案に基づき、切り出し、木材搬出後、利用目的、利用サイズ、販路先ごとに、仕分け作業も同時に進行中。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

林業機械のオペレーションは、3人1組で作業中の安全を確保しながら効率的、かつ計画的に、作業を進めていた。高速林業機械の導入は、森林施業の効率化と林業従事者不足施策や業界の維持継続への一助に効果的と感じた。

③ スパ保養施設視察

宿泊先のスパ施設を視察と体感。森林エリアの湖畔で、森林浴と温泉浴を連携し、宿泊客誘客や高付加価値の創造、新たな森林サービス産業の可能性に価値あり。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

森林は、林業・木材産業だけではなく、森林空間を利用した人を呼び込むための新たな森林サービス産業を生み出すことに、県も積極的に取り入れるべきと感じた。



5日目 4月20日(スイス→ドイツ)

① ライン川河川敷の近自然型造成地 観光レクリエーション施設視察

ライン川河川敷を利用した州の大規模イベントが終了後、河川流域河川敷を近自然型に改修。

日本では、護岸をコンクリートで固める工法が主流だが、ドイツでは当地の石を積み重ねて使うなど、限りなく自然景観に近い状況を残す工法(グリーンインフラ)が主流。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

岐阜県の川の性格(流量・護岸の状況・川幅等)は、ドイツとは違いはあるが、生物の多様化、水質の浄化、河川景観等、地元皆様の岐阜県の清流を維持・管理をしいくうえで、自然景観を守りながら、護岸の強度とを同時におこなうような工法も、考えていくべきとも感じた。

多機能森林業視察・講座

地元の森林を知り尽くすランゲ森林官らから、森林管理・森林経営等を数値を示しながら、害虫対策、森林火災抑止、森の植生保護等、リスクマネジメントの必要性を強く説明。私からは、県議会一般質問で提案した森林の木材産業への有効活用や傾向に加えて、他業種の森林空間利用、森林サービス産業への先進地としての取り組み状況や可能性を質問。

今後の県の事業展開に向けた施策への参考

今回のドイツ視察のメインは、森林管理と森林経営、そして森林サービス産業の今後の方向性。森林伐採をより効果的にこなうための林道計画やドイツ型林道整備工法を、本場ドイツの現地現場で学びができたことは大変勉強になった。今回視察をした森林奥地に建設されたナショナル生み出して、世界基準の山岳観光地に、人を呼び込む施策を官民連携で推し進めることが大事だと感じた。

② ハイデルベルグ市内視察

古城の街、そして学園都市「ハイデルブルグ」。人口は14万人だが、観光客は年間350万人。

短い時間ながら旧市街地である古城周辺を散策。旧市街地の観光エリアは、市全体の1%。注目したのは旧市街地に隣接した「再開発エリア」。

このエリアは、ドイツ鉄道の敷地跡の広大な面積に、区画整備された集合住宅、緑地公園等は、教育都市・医療都市・環境都市として都市環境に配慮した計画。



6日目

4月21日

・移動日

フランクフルト空港 ～ 羽田空港

7日目

羽田空港着、羽田空港 ～ 富山空港

総括

今回のドイツ・スイス視察のテーマは、県が推し進める森林づくり施策に加えて、新たにスタートする森林空間サービス、森林サービス産業の創造と利用を、森林産業の先進国を選び、視察をさせていただいた。

ドイツでは、森林環境保護の観点から「ナショナルパーク」、多機能森林業の観点から、森林・森林産業経営や森林のリスクマネージメントの必要性等を学び、フライブルグ市の都市グリーンインフラ施策、都市交通システム施策、都市市街地における河川災害抑止のための涵養堤、河川の自然化改修現場も視察させていただき、更に、医療・治療・保養を組み合わせた「クアオルト」エリアも視察。

スイスでは、高性能林業機械タワーヤードの作業も実際に見学させていただき、温泉浴と森林浴を組み合わせた森林空間・森林サービス産業の展開も視察させていただいた。

令和6年度の岐阜県林政部の基本方針である「森林づくりの推進」「林業・木材産業の振興」「森林の新たな価値の創造と山村地域の振興」施策を展開するうえで、極めて意義ある視察となった。

今回の視察を、今後の岐阜県の林政をはじめとする政策立案、事業の取り組み等の推進に、大いに役立てたい。

以上